

令和6年度 第4回学校運営協議会 議事録

下野市立南河内小中学校

日時 令和7年2月5日(火) 9:30~

参加者 学校運営協議会委員

坪山 仁 様 川田 玲子 様 慶野 正司 様
齋藤 仁志 様 野口 幸一 様 原 安礼 様
海老原 忠 校長 岡本 直美 教頭 稲見 雄太 教頭 高橋 由枝 教諭
黒崎 智照 地域連携教員 阿部正明 地域連携教員
地域学校協働活動推進員 上野 保久 様

欠席者 荻原 剛 様 上野 達也 教諭

会次第

1 開会 会長あいさつ

2 報告事項

(1) 今年度の取組概要(校長)

- ・御意見をいただくことが、我々の反省と励みになっている。
- ・学習状況調査 基礎基本定着最大の課題。
- ・人間関係を築くことが苦手な児童生徒が増えている。
- ・いざというときに踏ん張りのきく精神面での強さを含めた体力づくりを実施している。
- ・学力学習状況調査の結果から

昨年度の同一集団ではないので単純比較はできない。

とちぎっ子 R5 4年 R6 5年 (同一集団) 学力向上が見られる。

- ・小中一貫教育成果指標

不登校児童生徒への取組 要因は多様

12月現在 不登校児童生徒の割合 後期課程の方が多。(病欠を除く20日以上欠席)
R5より多少減少しているが、微々たるもので、ほぼ横ばいである。

入学式 前期課程後期課程ともに参加

避難訓練 年間4回 4回目は予告なしで実施した。

体育祭 1年生2年生と8,9年生が一緒に入場。

応援団、合同種目など前期課程後期課程一緒に行った。

夕顔祭 1日目 発表

2日目 合唱コンクール(後期課程)、縦割り班でウォークラリー(前期課程)

持久走記録会(前期課程) 諦めない心を育てる

学年行事、式・集会 全校そろっての実施が多くなっている。

教員達の綿密な計画のもと実施できている。

委員会活動(5~9年)常時活動、イベント活動 学校を動かす原動力である。

縦割り班 全校共遊、清掃

海外生徒との交流(8年) 全て英語での交流

根尾学園(岐阜県)との交流(3年) 明日からスタート

市陸上記録会（前期課程） 優秀な成績を収められた。

市キンボール大会 準優勝

部活動 素晴らしい成果が出ている。

→ 地域移行 なかなか受け入れ先見つからない現状。

教職員研修 授業公開期間、S&U コラボ授業研修 前期課程後期課程教員合同の研修。

基本は日常の授業。授業を大切にしていきながら、他活動の充実を図っていく。

保護者、地域の方々にも助けていただいております、ありがたく思っています。

（２）今年度の地域連携事業の状況について（阿部・黒崎）

①前期課程

- ・校外学習で市内施設等を利用した。
- ・市各課の講座を中心に実施した。
- ・全学年で実施している。
- ・地域外部講師、ボランティアを積極的に活用している。
- ・えごま ３年生 → ６年生 で実施。（種うえ、収穫、油絞り）
えごま油 歴史館での点灯式に参加（４年生 11 人）
- ・来年度は内容を精選し、集約して実施したい。

②後期課程

- ・キャリア教育（７年）１月「職業人に学ぶ」 ５名の講師をお招きして実施。
- ・職場体験学習（８年）２日間 30 以上の事業所に協力いただいた。（下野市及び周辺市にて）
- ・下野市の魅力発信（９年） 市内各地に行き取材したことを、それぞれの方法で発信する。

③特別支援学級 いちご狩りの実施

（質疑）

- ・学力学習状況調査で学力向上が見られたと言うが、学校では具体的にどんな手立てをおこなったのか。
→ 日々の授業を充実させ、基礎基本を充実させてきた。学び直しの時間の確保。ICT 機器を活用した授業の工夫などを行っている。
- ・不登校への対応はどんなことをしているのか。
→ 新たな不登校児童生徒を出さない。そのためにも、家庭訪問などを行い、学校との関係が切れぬように努めている。家庭との連携を図る。SC や SSW とも連携を図り対応してする。
- ・学び直しの時間は放課後か。
→ 授業開始時、前時の復習からスタートする。時間がとれるときにまとめて復習の時間をとり、習熟度学習などを実施している。放課後は、時間がとれない。
- ・不登校の原因が多様化し、教員の負担は増えていることと思う。教員は、不登校の原因をすべて把握できているのか。
→ はっきり事情を話してくれる場合は確実に分かる。しかし、そういう子ばかりではない。また、自分でもはっきり理由が分かっていない児童生徒もいる。SC、SSW の力も借りて支援体制を整えている。しかし、一筋縄ではいかないのが現実であり、全ての原因を把握しているとは言い切れない。
- ・不登校が、後期課程になり５倍になることが驚きだ。児童生徒個別への対応が大切。無気力、同調性などの要因もあるのでは。小さな成功体験を前期課程から積み上げていくことができればよ

いのだが。授業以外だけではなく、授業の中での成功体験も大切。授業を受けながら、「分かった」という小さな成功体験をさせたい。

- 不登校の児童生徒の実情を把握しているか。実情を教えてください。
 - サポートセンター、フリースクール等学校外で活動している子もいる。家から出られない子もいるが、その様子について全く把握していないわけではない。
 - 石橋に適応教室「スマイル」がある。個別指導で支援をしている。今日は調子がいいから学校へ行きたいなども可能。相談できる体制もあり、学校との情報共有もできている。送迎でなければ行けない距離であることが課題。
 - 12月時点で、20日以上欠席した場合を不登校とカウントするので、休みがちだが学校に来ている子もいる。ずっと来ていない子は、ごく一部。
- 不登校が改善した子もいるか。
 - 4月当初と比べると、改善傾向にある子も。ただし、毎日来れるわけではない。「よくきたね」の声かけを嫌がる子もいる。
- 避難訓練は、本当に抜き打ちなのか。
 - 「今週のどこかでやる」とだけ伝えて実施。休み時間等、教師がいない状況で実施となることもある。子ども達が自分で考えて行動する。職員室の防犯カメラで避難の様子を確認した。
- 防犯カメラはどこにあるのか。
 - 敷地内前6カ所。死角となる場所などにもあるので、ありがたい。
- セコムなどのセキュリティもあるのか。
 - 夜間のみ。日中はない。刺股などを備え、不審者対応の避難訓練を行っている。
- 不登校ですっと登校できていない子は、何人くらいいるのか。
 - 5~6人くらい。
- 不登校対応、すぐ解決できる問題ではないので、学校も保護者も長い目で気持ちを柔らかくして接していくとよい。

3 協議事項（会長）

(1) 学校評価結果の説明（教頭）

- 全体として大きく下回った項目はない。前年とあまり変化なし。70%を下回る項目が、本校の課題と捉えている。
- 教員が、グループに分かれて分析、改善策の話合いを実施した。
 - （課題）読書、挨拶、体力向上、地域行事、なりたい職業がある、自信を持って発表
- 来年度、よりよい教育活動を実施できるよう、この結果を生かしたい。

(2) 学校評価に関する意見交換

- 児童生徒と、教員の評価はあまり差がない。児童と保護者の結果に差がある。児童と保護者のコミュニケーションに課題があるのでは。ことある毎に、児童生徒と保護者にコミュニケーションを呼びかける啓発をしていくことが必要ではないか。
- 挨拶について、教員の評価が高くなったその要因は。
 - 繰り返し指導してきたことで、開校当時に比べ児童生徒が少しずつできるようになってきたと思う場面が増えたのでは。
- だれにでも挨拶、声かけすることは、不審者と思われる時代の傾向があり、難しい面も。
- キャリアパスポートの存在を知らなかった。持ち帰るなどした際に、それをもとに家族でコミュニケ

ーションがとれるとよい。

- 「学校のことを話している」と思っている教員が多いが、実際はそこまで多くない。「話している」という教員側の判断材料は何か。
→ 明確な基準はないが、日常の会話や様子から判断した結果である。
- 「学習することが楽しい」 C+D 保護者36%、子ども25%。学び直し、振り返りなどの取組で、学習が楽しいと思えるようにしてほしい。
- 「子どもは読書が好き」 読書以外の子どもが興味を持つことに取り組むのもよい。読書だけを取り出したこの質問が異質に感じた。
- 「徳」に関する質問 AとBなら、子どもはAを選ぶが、大人はBを選ぶ傾向が見える。
- 「生活のきまり（時間・提出物）を守る」教員100%が肯定的回答。しかし、保護者は違う。教員の方が好意的に見ているのか。
- 夕顔祭の「ウォークラリー」とは何をするのか。
→ 各教室で、縦割り班でゲームなどを行った。
- 「死ぬ」という手紙が見つかったという記述について。早めの対策を講じるべきだが、学校で対策を講じられたのか。
→ 学級も分かっており、指導もした。学級のポストに入っていて、学級全体に指導した。特定の子に書いたというものが分からない。
- 「死ぬ」という言葉については、言語環境の影響もあるのでは。大人も意識しないといけない。
- メディアの影響も大きい。
- 夕顔祭について。保護者からの要望について、何か対策をとれないか。県内の他の一貫校の取組を参考に行事の改善ができるのではないか。
- 体育祭や夕顔祭、児童生徒はどうやりたいのかなど、児童生徒の意見の聞き取りを行っているか。
→ 楽しかったという意見が多かった。下の学年の子が上の学年の子の活動の様子を見て、感じたり学んだりできることが多かったようだ。
- 後期課程の生徒からも、マイナスな意見はほぼ出ていない。むしろこの学校になって、他学年と交流機会を増やしたいという意見は多くある。
- 体育祭、他校はほとんどが半日実施。本校は一日かけて実施している。体育祭の種目が減ったという保護者からの御意見もあるが、統合前の感覚ではなく、本校になってからの体育祭として捉えてほしい。
- 先生も言葉遣いに気を付けほしいという意見がある。学校を企業としてみたときに、叱咤激励をして伸ばそうとする人と褒めて褒めて伸ばそうとする人がいるだろう。トップの校長からみて、どう指導すべきと考えるか。
→ 褒めて育てるが基本。教員も子どもを取り巻く環境の一つと考える。言葉については、十分に意識して指導できるようにしたい。
- 南河内二中学区では、小中合同でクリーン活動を実施している。まず小中の児童生徒が混ざって1時間程度遊んで、それからクリーン活動を行う。小中とも、マイナスな意見はなく、楽しみながら仕事もはかどっているようだ。本校は、そうした環境が毎日ある。そうした環境に児童生徒をのせていくことが大切。一緒に活動することはプラスになることが多く、マイナスはほとんどないと思う。それが本校の魅力となっていると思う。

4 その他

- 令和7年度学校行事計画について（高橋）

5 上野 保久 地域学校協働活動推進員 から

- 小中を通した子ども達の成長が見られる。3年間で、だいぶ落ち着いてきた雰囲気がある。
- 挨拶も、まだできない子もいるが少しずつよくなっている。
- 学校行事などを通して、子ども達の成長が感じられる。
- 本校のような学校体制はまだ珍しいので、見学等の訪問者も多い。今後の学校教育を担うパイロット的存在の学校。
- 先生達もとても丁寧である。言葉遣いなどの指摘があれば、それは改善していく必要がある。
- スクールバス3年間無事故。地域の方の協力あってのもの。当然のことではない。
- いい意味での緊張感をもって教育活動を行っているところを評価していただきたい。
- 学校の方でも遠慮せず、要望を言っていくとよい。
- 地域の方の協力も得て、学校が担う仕事を地域と分担できるようになるといい。
- 今年度で任期終了。お世話になりました。

6 校長より

お世話になりました。

任期は1年間ですが、再任妨げないということなので、来年度も継続して御協力いただければ、1年間ありがとうございました。